

平成30年度

# 学校評価



千葉県立東葛飾高等学校  
定時制の課程

平成30年度 学校評価結果 千葉県立東葛飾高等学校 (定時制の課程)

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校 経営	<p>①校内での教育活動を積極的に公開し、地域から信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) ホームページの内容を定期的に更新し、最新の情報を提供するとともに、中学校訪問で学校の情報を提供する。 開かれた学校づくり委員会やミニ集会等において、活動内容を紹介するとともに、意見や要望を伺う。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) ホームページの掲載内容と更新状況の確認、中学校訪問による意見や要望の集計結果 開かれた学校づくり委員会及びミニ集会の開催状況、参加者に対するアンケートの実施状況</p>	<p>①台風や豪雨等の非常変災時の対応等に一斉メール配信システムを活用した。</p> <p>また、生徒の様子や学校の行事等をホームページで定期的に公開し、定時制の教育活動を理解してもらうのに役立てることができた。今後も多くの保護者や地域の方々に、ホームページを見てもらえるような工夫や学校に来ていただく機会を増やす工夫を検討する必要がある。</p> <p>一昨年度から実施している職員による中学校訪問を今年度も継続して実施した。その結果、中学校に本校定時制に対する理解や現状を改めて認識してもらうことができた。</p> <p>保護者アンケートについては、回収率を高めるため、昨年度から生徒への配付と家庭への郵送を併用し、回収率が33%から56%へと増加した。</p> <p>「PTA活動に関心がある」と回答した保護者は38%(昨年度39%)であり、依然として学校への関心が低い状況であった。しかし、保護者の95%が「子どもを本校に入学させてよかった」と高い評価を得ることができた。</p> <p>生徒・保護者、中学校、地域等に対して本校定時制の目指すところを明確化し、適切に発信していく必要がある。</p>	<p>①一斉メール配信システムの登録者が全体の6割弱なので、引き続き登録を呼びかけていく。</p> <p>ホームページは、新しいコンテンツの作成や必要な情報的確な発信等の充実に努める。</p> <p>授業公開や芸術鑑賞会等の学校行事、PTA研修会など、早い時期から情報を提供し、来校の機会が増えるような工夫を行う。</p> <p>中学校への情報発信は、効果的に発信できるように在校生の多い学校や中学校側からの要請を鑑みて、次年度も2学期以降、全職員で分担して学校訪問による情報交換を行っていく。</p> <p>保護者アンケートでは、「本校のPTA活動に関心がある」とについては、38%の保護者が「関心がある」と回答している。「仕事の関係で難しい」という意見もあるが、なるべく多くの保護者が参加できる機会を積極的に作ることにより、PTA活動の活性化を図る。</p> <p>開かれた学校作り委員会とミニ集会については、今後も、全日制と共同で開催し、情報発信と意見交換を進める。</p>	<p>①保護者のアンケート結果でPTA活動に関心の低い保護者が多いのは残念な結果であるが、職員や生徒が頑張っていることは理解できる。</p> <p>ホームページの更新を引き続き定期的に行い、学校からの情報発信の充実をお願いしたい。</p>	<p>①保護者や地域への情報発信として、ホームページを更に充実させ、適時更新して教育活動の広報に努める。</p> <p>一斉メール配信システムへの登録は、年度の始めと年度途中に数回呼びかけ、加入率を高めるよう努める。</p>
	<p>②全職員が主体的に教育活動に取り組む校内組織体制を確立する。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 目標申告を積極的に活用するとともに、職員研修を充実させ、職員の能力開発と生き生きとした風通しの良い職場づくりを実現する。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 目標申告を通じた具体的な取組及び職員研修の開催状況</p>	<p>②目標申告に基づく面談を1学期中に実施し、年間を通して授業観察を行った。また、委員会等における協議事項を職員全体で共有する機会が少なくとの意見があったため職員間の意見交換を進めた。</p> <p>職員アンケートでは、「教育活動全般について職員の共通理解が図られている」に対する肯定的回答が83%(昨年47%)であり上昇した。分掌・委員会活動の評価も肯定的回答56%(昨年44%)であり上昇した。一方、特定の職員に業務が集中しているとの意見があった。業務分担や職員配置等の見直しが必要である。</p> <p>また、同アンケート「職員研修が十分に行われている」に対する肯定的回答は78%(昨年88%)で下降した。研修の充実による職員の資質向上への取組が一層必要である。</p>	<p>②定時制では職員全員が職員室で執務を行っているため、管理職を含め職員全体のスムーズな意思疎通に役立っている。その反面、会議を開かなくても共通認識ができたこと判断し、十分な協議検討を経ないで、立案・企画を進めてしまうことがあった。</p> <p>今後は、真の「風通しの良い職場づくり」を目指し、目標申告に基づく管理職による面談や意見交換の充実、分掌会議の定期的開催、適正な分掌構成と職員分担を常に意識できるよう改善する。</p> <p>職員研修については、引き続き、喫緊の課題に対応できるテーマを選び、充実に努める。</p>	<p>②「職員の共通理解が図れている」が47%から83%へ上昇したことは、評価できる。今後も職員間で共通理解を持ちながら個々の生徒への指導をお願いしたい。</p>	<p>②組織体制を常に見直しながら、会議や情報交換会をバランスよく開き、活発な意見交換ができるようにする。職員研修会では、今日的な課題に対応できるように計画する。</p>
	<p>③安全・安心な教育環境を確立する。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 学校安全計画や危機管理マニュアルについて、必要な見直しを図るとともに、学校安全点検表を活用し施設・設備の定期的な安全点検を進める。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 各種表簿等の見直しと安全点検の実施状況</p>	<p>③全・安心な教育環境づくり(防災・防犯含む)に関するアンケートでは、肯定的回答が職員78%(昨年78%)、保護者90%(昨年83%)、生徒80%(昨年73%)であった。</p> <p>学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し及び学校安全点検の毎学期の実施、防災講話での防災意識の向上、緊急伝達訓練等、職員、生徒、保護者には一定の評価を得ることができた。</p> <p>校内清掃の評価は肯定的回答が56%(昨年58%)とわずかに下降した。環境美化の評価を上げていくために清掃活動に力を入れていく必要がある。</p>	<p>③学校安全計画や危機管理マニュアル及び学校安全点検表については、必要な見直しを行っていく。</p> <p>清掃活動については、管理部を中心に年間の清掃計画を見直し、定期的に行う安全点検と連動して各施設設備の清掃を年間計画に組み込んでいく。</p> <p>また、通常の清掃活動と学期ごとの大掃除等の実施計画の見直しを年間行事の中で調整して徹底する。</p>	<p>③学校安全計画や危機管理マニュアルを通して安心安全な学校づくりをお願いしたい。保護者のアンケート結果で95%が「入学させてよかった」と回答しているのは素晴らしい。</p>	<p>③今後も安心・安全な学校づくりに努め、学校安全計画や危機管理マニュアル、安全点検表の見直し・改善を図る。</p>

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会か らの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた 改善方策)
学 習 指 導	<p>①基礎・基本の定着を図り、授業の工夫・改善に努め、わかる授業の確立を図る。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 生徒の学力に適した教材の精選及びわかり易い授業を行う。 授業のユニバーサルデザイン化についての研修会を企画し、その成果を授業で実践する。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 生徒による授業評価アンケート結果、授業公開の実施回数、保護者・教員による授業参観と授業評価アンケート結果、校内研究授業・研修会の実施回数とその状況</p> <p>②生徒の能力の多様化に対応して、少人数指導と個別指導の充実を図る。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 1・2年次の英語、数学、情報等において少人数授業やTTによる授業を実施するとともに3・4年次の選択科目を充実させる。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 特別に実施した授業形態の実施状況</p>	<p>①生徒の授業アンケートでは、次のような結果だった。</p> <p>「黒板の内容がわかり易い」が84% (昨年76%)、「指示や質問が明確」が82% (昨年74%)、「授業のテーマやねらいがわかり易い」が81% (昨年74%)、「授業の開始終了がチャイムと同時」が88% (昨年76%)の肯定的回答であり、昨年度より上昇した。「生徒が活動する場面がある」は、74% (昨年72%)、「生徒の理解を確認して進む」が77% (昨年72%)であり上昇はわずかであった。特に、「教え方に熱意がある」84% (昨年69%)、「教材や教具を効果的に使用」78% (昨年65%)、「授業がひきつけられる内容であった」76% (昨年65%)で昨年度より10%以上上昇し、職員の努力が生徒にも受け止められていたと考えられる。</p> <p>今年度、保護者・地域等への授業公開を2日、中学生への公開を5回、教員相互の授業公開を1日、1学期の管理職による授業観察、若手研修育成チームによる授業研究を行った。</p> <p>②1・2年次の英語、数学、情報等において少人数授業やTTによる授業を導入し、個別指導をさらに充実させた。また、3・4年次は、生徒の興味・関心や進路希望に対応できるよう選択制としている。</p> <p>少人数授業やTTによる授業は、特に1年次で有効である。今年度の英語科は、1、2年ともにTTを行い、基礎事項(英単語テスト、中学校文法、リスニング)の定着は昨年に引き続き一定の成果があった。</p> <p>「予習や復習をしている生徒」は、32% (昨年31%)で依然として低い結果であった。仕事をしながら高等学校に通っている生徒にとっては家庭学習が困難な状況にある場合もあるが、時間的に余裕のある生徒に対していかに学習習慣を身に付けさせるかが課題である。</p>	<p>①不登校経験のある生徒や様々な課題をかかえた生徒も入学していることから、基本的な生活習慣や基礎的基本的な学力が定着していない生徒がいる。また、人とのコミュニケーションを苦手とする生徒もいる。このような状況下で生徒の学習理解を深めるために職員が個々の生徒に対してきめ細かな指導を行い、改善された事項と新たな課題等を意識した指導を心がけていく。</p> <p>特別支援的アプローチ、「授業のユニバーサルデザイン化」について、今後研修を深めていく。</p> <p>また、「高校生として必要な知識・技能習得」と「学ぶ楽しさや達成感を実感させる魅力ある授業づくり」は、両立すべきものであり、そのことを意識した授業研究や授業参観が今後とも重要であると考えられるため年間計画に組み入れる。</p> <p>②今年度、各教科で取り組んだ、少人数授業やTTによる授業形態の成果について、各教科で十分な分析・検討を行い、次年度の授業形態において最も効果的な指導法を案としてまとめた上で、全体で協議する予定である。</p> <p>1年次の導入期間の指導法と生徒の学習習慣の定着化については、全教科の共通課題として取り組む必要がある。</p>	<p>①生徒のアンケート結果で授業に関する多くの項目で肯定的評価が上昇していることは良い結果であった。引き続き授業の工夫改善をお願いしたい。定時制ならではの丁寧でわかり易い授業を期待する。</p> <p>②個々の生徒に応じたきめ細かな対応が求められ大変であると思うが、TTや少人数授業などにより密度の濃い授業を行い、生徒がわからないままにしないことが大切である。</p>	<p>①職員相互の授業公開や各種の研修会への参加を促し、ICTや言語活動を積極的に導入するとともに、工夫した教材づくりやプリントを使用しながらわかり易い授業を心がけ、基礎的な学力の定着を図る。</p> <p>②生徒にとって最も効果的な指導法を継続協議し、少人数授業やTTをうまく使い分けて、より効果的な学習指導を行う。</p>
生 徒 指 導	<p>①生徒同士、生徒と教職員のコミュニケーションを重視した豊かな人間関係づくりを実践する。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 挨拶や声かけを重視し、共感を重視した生徒理解に基づく指導を実践する。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 登校時の挨拶運動、夕食時間の夕食指導や校内巡回、PTAの夜の見回りや学期始めの登校指導の実施状況</p>	<p>①職員アンケートにおいて「職員は生徒一人一人に対して親身になって接している」に対する肯定的回答が94% (昨年94%)、生徒・保護者アンケート「本校の先生は親身になって生徒と接してくれる」も生徒81% (昨年77%)・保護者84% (昨年78%)である。今後も実践を継続したい。同様に「本校の先生は適切な生徒指導をしている」も生徒81% (昨年75%)、保護者87% (昨年79%)の評価結果であり上昇した。</p> <p>また、職員アンケート「人権(含いじめの未然防止)に配慮した教育」に対する肯定的回答83% (昨年83%)であり、いじめを見逃さない学校づくりに向けての共通理解は一定の成果があったものと考えられる。</p>	<p>①毎日行われている昇降口での挨拶指導や夕休みの校内巡回、夕食時の食堂での夕食指導、学期始めの登校指導、PTAと連携した夜の見回り等を引き続き行い、生徒とのコミュニケーションに努めるとともに、情報収集と情報共有を進め、いじめの未然防止を図る。</p>	<p>①職員が生徒に対して親身になって接していることがアンケート結果からよくわかる。</p> <p>今後とも、心豊かな生徒の育成に一丸となって努めて欲しい。</p>	<p>①登校指導・挨拶運動・声掛け・夕食指導・校内巡回などを引き続き実施するとともに、保護者や地域との連携を推進するために、夜の見回りや情報交換を継続して実施する。</p>

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
生徒	<p>②道徳教育や体験活動を通して、命の大切さや相手を思いやる心を育成する。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 特別活動や総合的な学習の時間における体験活動とLHRを中心とした道徳教育を充実させる。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 体験活動の実施状況と道徳教育を充実させるための工夫内容</p>	<p>②今年度も昨年度に引き続き、道徳教育推進教員を中心に、校外の研修会に積極的に参加し、研修の成果を本校の道徳教育に還元し年間計画の中に取り入れて実践した。</p> <p>上記の取組に対して職員「人権に配慮した教育」の肯定的回答は、83%(昨年83%)であった。道徳授業は、担当年度の負担は大きいと思うが、次年度以降も職員全体での研修を通して指導力向上を進めていく必要がある。</p>	<p>②道徳教育に関する資料をさらに充実させるとともに、学校内外の研修会等を通じて、生徒の実態に合った道徳授業の工夫と教材作りに努める。</p> <p>今年度、1年次職員の担当者が中心に取り組んだ実績を次年度に生かし、改善・工夫した内容で年間計画を作成し、本校の道徳教育の定着と充実を推進する。</p>	<p>②道徳教育推進に継続して取り組んで欲しい。</p>	<p>②道徳教育推進教師を中心に研究授業を実施する。今後も道徳教育の充実を図っていく。</p>
指導	<p>③生徒に対する教育相談活動を充実させるとともに、いじめや暴力を見逃さない学校づくりの充実を努める。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 面談期間や日々の観察を通じ、生徒の心の変化を見逃さないように努める。いじめのアンケートや連絡会議を定期的に行う。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 個人面談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用等、生徒理解のための工夫・取組の状況、情報共有の実施状況、いじめ防止基本方針の取組状況</p>	<p>③3年前、セクハラ・いじめ・体罰・特別支援教育・人権教育を担う組織を統合し、「教育相談委員会」として改編した。</p> <p>今年度も定期的に会議を開催し、職員会議等で内容を報告し情報共有を深めた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーには、必要に応じて「教育相談委員会」や学年会等に参加していただき、指導助言を受けた。</p> <p>職員アンケートでは「教育相談(含いじめの早期発見・早期対応)のシステムがよく機能している」に対する肯定的回答が83%(昨年82%)であった。生徒アンケートでは「本校の先生は生徒の精神的な悩みなどの相談に応じてくれる」に対する肯定的回答が78%(昨年72%)であり上昇した。</p> <p>いじめに関する生徒アンケートの結果、数件疑わしい事案が出てきたため、教育相談委員会を中心に対応した。</p>	<p>③道徳教育に関する職員研修会を実施し、職員の指導力向上を図る。</p> <p>「教育相談委員会」を中心に、引き続き、教育相談活動をきめ細かく行うとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを効果的に活用しながら、生徒の心に寄り添う生徒指導を行う。</p> <p>また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携方法、教育相談委員会の組織の在り方や運営について、構成メンバーや定期会議の設置の有無、各取組の見直しを図る等の検討を行う。</p> <p>いじめアンケートで収集した情報や相談内容については、個人情報に配慮しながら、関係職員間で共有し実効力のある教育相談活動を行う。</p> <p>次年度も、いじめやセクハラ・体罰等のアンケートを実施し、早期発見、早期対応を図る。</p>	<p>③「先生は生徒の精神的な悩みなどの相談に応じてくれる」の評価が上がっていることから、SCやSSWの活用をはじめ教育相談がよく機能していることがわかった。</p>	<p>③SCやSSWと教育相談委員会との連携を強化し、生徒指導と教育相談の両面から一人一人の生徒の抱える問題に丁寧に対応する。</p>
キャリア教育	<p>①生徒の進路意識の向上を図るとともに、教育活動の成果を、生徒個々の進路実現へとつなげる。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 関係機関との連携を強化するとともに、生徒の実態に合ったキャリア教育の充実を図る。</p> <p>進路に関する個別指導の充実を努めるとともに、進路説明会やガイダンスなどを実施し、職業観や勤労観の育成に努める。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) ハローワークや若者サポートステーション等の関係機関との連携状況とキャリア教育充実に向けた研修状況、個別面談の実施状況と進路説明会・ガイダンスの実施回数、参加人数、活動状況</p>	<p>①1学期に全校生徒を対象に、各分野から専門学校等の講師を学校に招き、進路ガイダンスを実施した。また、ハローワークと連携し、担当者に定期的に来校していただき、就職希望の生徒に対する指導を行った。アンケート結果では「生徒自身が進路実現のためにがんばっているか」という問に対して、生徒・保護者の肯定的回答は、生徒が66%(昨年71%)、保護者は74%(昨年67%)であり、生徒は下降したが保護者は上昇した。生徒の「本校は進路に関して適切な情報を提供している」は76%(昨年70%)、職員の「職員に対して進路関係の情報が適切に伝わっている」が39%(昨年41%)で、生徒や職員が情報を共有できるための体制づくりに向けて今後も改善を継続していきたい。</p> <p>進路実現には生徒本人の意識が重要であるため、3、4年次のHR担任は工夫して指導している。また、定時制は近年、勤労学生よりも、発達障害や不登校経験者等、様々な課題を抱えた生徒が入学し、将来の進路よりも、卒業すること自体が目標となっている生徒が増加傾向にある。このような生徒に対しても、可能な限り卒業後の進路実現に向けて指導する必要がある。</p>	<p>①職業観、勤労観の育成のため、早い時期に分野別の職業説明会を実施し、生徒一人一人に自らの将来を考えさせる機会とする。</p> <p>引き続き、ハローワーク等の外部機関との連携を強化するとともに、将来に役立つアルバイトの選び方を指導する機会を設ける。</p> <p>また、県の研究指定校の先進事例等を参考に、特別支援教育の視点に立ったキャリア教育の推進を検討し、生徒の進路意識の向上を図る。</p> <p>本校の特色でもある三修制や学校外での学修の成果の単位認定を紹介し、生徒一人一人が自分に適したキャリアプランを考え、将来の夢や目標を見つけられるよう、ハローワーク等との連携を一層進める。また、生徒支援に有用な外部機関と連携する機会を増やし充実させる。</p> <p>今後は、LHR等でワークシートを活用し系統立てた進路指導を進め、進路情報提供を積極的に行い、卒業生の体験談やハローワークによる講演会等について企画する。</p>	<p>①キャリア教育については、生徒一人一人の進路実現のために連携をとりながら取り組んで欲しい。</p> <p>進学の奨学支援制度の活用が望まれる。</p> <p>教員間で進路情報を適切に共有するよう努めて欲しい。定時制の今後の在り方を考える上で、就職や進学の進路開拓に努め、進路実績を積み重ねて欲しい。</p>	<p>①定時制におけるキャリア教育の先進事例について研究し、必要に応じて研修会を実施する。</p> <p>生徒の自己実現のための生き方・あり方教育を含む就活レクチャーを継続して実施する。</p> <p>ハローワーク等との連携を強化させる。進路室をその活動の場として整備するとともに、進路指導部と各年次やHR担任等の情報共有を図る。</p>

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会か らの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた 改善方策)
特別活動	<p>①生徒会活動や部活動を通して、生徒の自主性・社会性を育てる。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 部活動の加入を促すとともに、生徒が協力して作り上げる生徒会行事を支援する。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 部活動加入率、定通体育大会や定通文化発表会の実績、生徒会行事の実施状況</p>	<p>①春の定通体育大会では、陸上(女子走高跳)で全国大会へ出場することができた。秋の大会では、サッカー部が3位に入賞した。</p> <p>部活動については、加入率が22%(昨年25%)と低いのが課題であり、「部活動の活発化」に関する肯定的回答が職員39%、保護者62%、生徒59%であった。10月の定通総合文化大会では、入賞者が3名と健闘した。</p> <p>生徒会主催の星華祭については、生徒の自主的活動を促しながら実施することを目標としたが、準備や実施に向けての企画運営段階でいくつかの課題が残った。</p> <p>「HR活動や生徒会活動の活発化」に関する職員と生徒のアンケートでの肯定的回答は、職員50%(昨年71%)で下降したが、生徒は70%(昨年67%)でやや上昇した。また、生徒の学校行事についての評価は、「学校行事は充実している」が76%(昨年66%)で上昇した。</p>	<p>①生徒の生活環境や気質の変化等、様々な要因が部活動の取組や学校生活の変化にあらわれている。急激な改善は難しいが、部活動への勧誘を通年にわたって設定し、生徒に呼びかける。特に大会前には入部を奨励するとともに、大会直前の1週間は学校全体で部活練習を支援する取組を行う。</p> <p>定通総合文化大会は、芸術科の担当教員とも連携しながら生徒が達成感を感じられるよう、きめ細かな指導を行う。</p> <p>星華祭については、引き続き生徒による計画的な企画運営を促す。また、活動の成果を適時、ホームページやPTAだより等で発信する。</p> <p>学校行事については、今後も新たな企画立案や行事の精選も踏まえながら職員・生徒の意見を反映させて充実を図る。</p>	<p>①部活動や生徒会活動の活発化、学校行事の充実により、定通体育大会や定通総合文化大会等に積極的に参加し、魅力ある学校づくりを推進して欲しい。</p>	<p>①部活動の場所や時間的な制約はあるが、限られた時間の中で充実した活動になるよう支援する。また、生徒会活動については、主に学校行事等で生徒の自主的な企画運営を促していく。</p>
特別支援教育	<p>①特別な支援を要する生徒をはじめ、すべての生徒へのきめ細かな対応を心がけ、生徒一人一人を大切に学校を目指す。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 校内の支援体制を整えるとともに、特別支援アドバイザー事業を積極的に活用し、教育事務所と連携しつつ職員研修会を充実させる。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 教育相談委員会や特別支援関係者会議と校内研修会の開催状況 特別支援アドバイザーの活用状況</p>	<p>①教育相談委員会で、特別な支援を要する生徒の状況を把握するとともに、必要な生徒に対しては、きめ細かな支援ができるように準備することに努めた。今後、さらに全日制の職員と協力して、教育相談に関する研修、思春期の子どもへの接し方、情報モラル講演会、人権講話(いじめやDV防止)、コーチング等の生徒・職員・保護者を対象とした研修会を実施し、職員の資質向上や保護者・生徒への啓発活動を充実させる必要がある。</p> <p>「教育相談のシステムがよく機能している」の職員の評価は83%(昨年82%)であった。また、「生徒の精神的な悩みなどの相談に応じてくれる」の生徒の評価が78%(昨年72%)で上昇した。今後も組織全体で活動を充実させていく必要がある。</p>	<p>①教育相談委員会組織の再編4年目となった。今後の方向性も含めて、組織全体の活動内容の充実を図っていく。具体的には、教育相談委員会の会議を定例会として実施し、教員間の情報共有をさらに進める。また、より組織的な対応ができるよう人的配置を工夫する。</p> <p>各種研修については、関係機関との連携や職員の要望や喫緊の課題に対応した研修会の実施を目指し、充実したものとする。</p>	<p>①今後とも教育相談委員会の活動をさらに充実させて欲しい。外部人材の活用や職員の研修など、特別支援教育の幅を広げ、活動を充実させていくことを願う。また、特別支援コーディネーター等の活用も継続して欲しい。</p>	<p>①スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援アドバイザー、特別支援学校などの外部機関や人材を活用し、特別支援に関する職員の研修と教育相談活動の一層の充実を図る。</p>